

## 令和6年度 第1回 福井県長期ビジョン推進懇話会 議事録

- 1 日 時 令和6年6月3日(水) 15:00~16:30
- 2 場 所 国際交流会館 3階 特別会議室
- 3 出席委員 委員名簿のとおり
- 4 事務局 福井県知事 杉本 達治  
事務局:福井県未来創造部 部長 武部 衛  
// 副部長 田中 秀和  
// 未来戦略課 課長 松村 仁史 他

### 5 配布資料 別添のとおり

### 6 議事の経過および結果

#### (1) 開会

- ・知事あいさつ
- ・有識者セミナー講師 紹介
- ・座長あいさつ

#### (2) 議事1:現・長期ビジョン実行プランおよび第2期ふくい創生・人口減少対策戦略の進捗について

議事2:国内・県内の環境変化・見通しについて

議事3:次期・計画策定に向けた今後のスケジュールについて

【資料2】により事務局から説明

#### (3) 議事4:意見交換

<出席委員の発言概要>

[委員]

- ・県の政策の中で文化が重要視されるようになってきており、非常に望ましい変化である。
- ・ブランド戦略でも「千年文化」がキーワードになるように、文化は地域の歴史の積み重ね、固有の魅力であり、価値の源泉としての文化が打ち出されている。寛容性を作り出すのも文化芸術であり、創造性を育み、多様性を受け入れる基盤になるもの。
- ・文化事業が目に見える形で盛んになってきており、アーティスト・イン・レジデンスのような事業も増えている。アーティストが好む地域は、関係人口が増え、定住にもつながるオープンな地域になっていくため、そのような事業がもっと盛んになるとよい。
- ・昨年度、文化振興プランを策定したので、それを着実に実行することが非常に重要であり、これまでにない発想を生み出す人材を作っていくためにも、文化、アートに触れることが大切である。

[委員]

- ・他県と比較しても、出産・医療や子育てにおいて福井県は手厚いサポートを受けることができる。自分自身は管理職として仕事しながら子育てと両立できており、女性管理職についても福井県の考えが企業に浸透している。
- ・義務教育において、子どもの特性・特技を生かし、手に職を付ける農業、工業、デザイン系

など、個性を伸ばそうとする教育がまだ足りていない。どの業界でも専門職資格をもつ技術職が足りず困っているが、義務教育の段階で改善できる点があるのではないか。

[委員]

- ・福井県のコロナ対策は日本、さらに世界でもトップクラスと言えるが、これは行政、医療機関、県民などステークホルダーがお互いを信頼し、一つになったから。小さい県だからこそできたので、このパワーを活かしていただきたい。
- ・合計特殊出生率が高い県であり、「子育てだったら福井」ということをもっとアピールしてほしい。
- ・人口減少に打ち勝つために、小さい県であることを活かして、先進県としてDXを一気に広げてほしい。
- ・とんがった人が新しいアイデアを出す。とんがった人を育て、受け入れていく多様性も必要である。
- ・メディアと一緒に正しい知識を伝え合うメディア戦略も必要ではないか。

[委員]

- ・北陸新幹線の延伸はチャンスであるが、駅でタクシーを呼んでも来ないなど、福井に来た後の公共交通機関がうまくいっているか疑問に感じる。
- ・教育面では学力はトップクラス。高校の探究学習では生徒が地域の課題解決のため試行錯誤しながら活動している。タブレットは全国に先駆け配備が進み、コロナ禍でも生徒の学びを止めないということができた。
- ・教員の働き方改革は進んではいるが、部活動や日常の業務に追われて業務改善ができていない部分も見られる。
- ・福井農林高校に関しては、農業や林業が大事な産業であるということが中学生やその保護者に伝わっていないため、入学してくる生徒が少ないことが課題となっている。
- ・県内の大学でやりたいことをできる学部がないのか、県外大学に出ていく生徒がいる。

[委員]

- ・ここ5年ほどで父親の子育てへの参加率が上がり、当たり前になってきていると感じる。
- ・女性が進学などで外に出て行っても、福井に帰ってきたいと思ってもらえることが大事であり、未来への種まきをしていく時期だと思う。そのためには、大人がどういう姿を見せ、言葉をかけていくかが大事であり、福井には何も無いと言うのではなく、楽しんでいる父、母の姿を見せたり、それを見守るシニアの方々がいるという社会が成り立っていくとよい。
- ・子どもが自然の中で生きる力を育み、様々な体験をすることができる場が福井県にあるため、それを活かし、外に発信していけると、差別化が図れるのではないか。

[委員]

- ・技能実習生など外国人が増えているが、福井県では車がないと生活ができない。しかし、外国人の多くは運転免許を持っていない。日本語が堪能でない方だと自動車学校に行くことができないが、他県の自動車学校では多言語で教えている例もある。
- ・半分以上の外国人住民が長く福井県に住むつもりでいる。こうした人たちが福井に長く、

楽しく住むことができるよう、外国にルーツを持つ子どもとその子どもの保護者への支援を行うべき。日本と外国では学校の入学方法や卒業方法が全く違うので、学校に入る前の講座などの支援が必要である。

[委員]

- ・自由な発想でものを作り、こんなに地元が楽しいのだということを伝えるという意味で、女性起業家はおもしろい切り口であると思う。新幹線新時代を迎えたこの時こそ、女性の発想でそういう動きを作っていけたらおもしろい。
- ・新幹線が来て盛り上がっているように見えるが、逆に、人が出てしまったり、県外の事業者に頼ることで資本が県外に流出したりするという懸念がある。
- ・地元の人間を充実させるという視点を忘れず、福井県民が主人公で、その充実感、達成感が味わえる長期ビジョンを組み立てていただきたい。

[委員]

- ・今後の福祉は、保健・医療だけでなく、就労、教育、住まいなど、あらゆる分野と連携した包括的な支援体制が必要である。
- ・子どもが未来に向けて地域で安心して日常生活を送れるよう、協力を呼び掛けていく。
- ・労働力不足が福祉分野でも喫緊の課題であり、長く福井に住む外国人材をこれからも増やしていくことが重要である。
- ・物価高騰や人材不足により福祉事業所は厳しい経営環境におかれているため、財政支援等の総合的な対策を強く求める。
- ・地域のつながりを強化していくため、啓発活動を行っているが、長期ビジョンの中にもそのような内容を検討していただきたい。

[委員]

- ・新幹線の開業効果を継続することが重要であるが、人材不足が課題となっている。
- ・この先、国内の旅行マーケットが一気に縮んでいく可能性があるため、インバウンドの観光をいかに取り込んでいくかが重要であると考えている。
- ・観光入込客数という量の目標値だけでなく、質的な目標値もあってよいのではないか。例えば、観光消費額、あるいは県民が幸せになる観光といったことの数値化ができないか。
- ・観光はあくまでツールであり、色々なところとタッグを組んで連携していくとよい。
- ・県民の幸せのベースとして、安心安全が重要であると思うので、ビジョンにはそのような数値目標も入っているとよいのではないか。

[委員]

- ・全天候型の遊び場など、子育て支援の政策が手厚く助かるという声がある一方で、使いにくいという声もあるので、保護者からの声を聞いて工夫していただきたい。
- ・福井は割と子育てに寛容な地域であるが、小さい子に冷たい目を向ける人もいる。
- ・育児休暇や時短勤務なども徐々に広がっているが、職種によって取りにくい場面もあるので、みんなが取れるような形になるとよい。
- ・保育者の質と量の確保が必要であるが、保育者の仕事へのマイナスのイメージが先行し

ていることに危機感を感じる。

- ・社会全体として子育てを応援していくという雰囲気を作り、未来に希望が持てる社会になるとよいと思う。

[委員]

- ・男性がいったん県外に出ると、一人暮らしにより家事力、家庭で活躍できる力を高めることができるため、Iターンだけでなく、Uターンにも力を入れていくとよい。
- ・女性活躍の土台は男性の家庭進出であるため、男性が家事を学ぶ機会を創出していくことが重要である。
- ・男性を支援するという企業は全国的に珍しいが、まだないものを育てていく土壌ができる

[委員]

- ・女性が活躍し、男女共同参画の社会を作るために、男性の家事・育児参加のための講座や子どもの教育などに力を入れているが、今後、企業との連携も強めていきたい。
- ・女性が決定の場に参画できることが大切であるが、県外の方々からの刺激は良いので、県外との交流を今後、考えていきたい。

[委員]

- ・子育て、ビジネス、福祉など様々な領域で、リソース、コストを共通化できるところがたくさんある。ノウハウやお金、機械などを共有していくことが大事だと思う。
- ・福井の人は自身で抱えて頑張ってしまう人が多いが、お互いに手を取り合える領域はたくさんあると思う。自分の認識している世界ではない世界を知ることが重要であり、生涯学習のようなことを全世代でできるようにするとよい。自分自身で気が付いていない個性に他人が気づき認めるための教育が全世代でできるとよい。

[委員]

- ・観光は地域とつながっていかなくてはいけないが、地元の人に良いと思ってもらうことに課題を感じる。チャレンジに対する理解も不足している。
- ・事業は計画通りにいかず、浮き沈みがある。チャレンジの立ち上がりの部分だけを応援するのではなく、その先に失敗もしながら良くなっていくという部分を評価、応援してほしい。
- ・地元で働きたい若者の受け皿になっていきたいし、チャレンジに対する投資を呼び込めるとよいと思っている。

[委員]

- ・いちほまれは知名度・認知度が上がってきているが、全国との競争の中で、価格が上がる
- ところまでは至っていないため、しっかりと認知度を上げ、ブランド米に育てていきたい。
- ・「デジタルプラットフォーム TRETAS」をつくったが、福井でとれたものを福井で食し、お金を巡回させ、外貨を稼ぐという取組みを進めていかなくてはいけないと思う。
  - ・持続可能な農業に向けて食料・農業・農村基本法が改正されたが、課題がたくさんある。福井県の農業をどうしていくかを考えていかなくてはいけない。

#### [委員]

- ・福井県が目指す3つの姿の1つ「自信と誇りのふくい」に対しては、シビックプライドをいかに作り上げ、QOLをいかに向上していくかが大事であるが、スポーツには可能性がある。
- ・「誰もが主役のふくい」については、ダイバーシティー&インクルージョンが重要であるが、創業相談に来る方の4割が女性であり、積極的にサポートしていくべき。経験値のあるシニアの方々とのマッチングができるとよい。
- ・「飛躍するふくい」については、新たな成長エンジンの創造による経済の好循環のために、北陸新幹線沿線地域の産業の連携を強化していくべき。ものづくりは廃棄物が多いため、福井だからこそ小さく循環させ、環境共生・資源循環でつなげていくべき。

#### [座長]

- ・この4年間についてあまりダメという意見はなかったが、次の第2期に向けて何が大きな課題になるか、個別の部分は事務的に整理することとし、懇話会としては、多様な視点で、本質を突いた提案が欲しい。
- ・3つくらい目標、ゴールを描き、県民が共有できるとよい。

#### (4) 閉会